会　議　録

会議の名称	令和８年度第２回　飯塚市中小企業振興円卓会議
開催日時	令和８年 10 月 20 日（火）18 時 00 分～19 時 40 分
開催場所	飯塚市役所２階　多目的ホール
出席委員	河委員長、鶴田副委員長、荒木委員、田中委員、小野本委員、入江委員、野村委員、林田委員、伊藤委員、野上委員、花田委員、松尾委員
欠席委員	澁田委員、高田委員、岡松委員
オブザーバー	平川オブザーバー、鬼丸オブザーバー（九州経済産業局） 西野オブザーバー（福岡県飯塚中小企業振興事務所）
事務局職員	【産学振興課】中村課長、長谷川課長補佐、岩城係長、亀口、楳 【企業誘致推進課】瓜生課長【商工観光課】安藤課長補佐、藤井係長 【国際政策課】深江課長【農林振興課】神原係長、西係長
会議内容	１　開会 ２　議題 ・次期産業振興ビジョン策定に向けた意見交換について 　事務局による資料説明後、事前に委員から提出された意見をもとにした意見交換を行った。 ●会議の目的 　飯塚市の産業振興を今後さらに発展させていくため、委員から地域企業等が抱える課題や必要な支援策について意見を出してもらい、次期産業振興ビジョン策定にあたっての検討材料とすること。 　今回の会議は、具体的な事業を決定する場ではなく、実現できるかどうかにとらわれず、将来の飯塚市に必要な取組を幅広く考える場として実施した。 ●主な課題と改善に向けた提案 ① 若者の地元就職・定着を促進する ≪課題≫ ・ 市内に大学があるものの、卒業後に市外へ就職する学生が多い。 ・ 地元企業の魅力が学生や若者に十分伝わっていない。 ・ 中小企業では人材を募集しても応募が集まりにくい。 ≪改善に向けた提案≫ ・ SNS や動画を活用し、企業の仕事内容、給与、職場環境、経営者の考えなどを発信する。 ・ 学生と企業が気軽に交流できる機会を増やす。 ・ 大学や高校の教員にも地元企業を知ってもらう。

	・ U ターン・I ターン希望者への支援や、外国人材が働き暮らしやすい環境づくりを進める。 ・ 若者に選ばれる企業となるよう、企業自身の魅力向上も支援する。 ② 企業の人材育成を強化する ≪課題≫ ・ AI やデジタル技術を活用できる人材が必要になっている。 ・ 研修や講座がさまざまな機関で実施されているが、情報が一元化されていない。 ・ 経営者や中堅社員が学び、成長する機会も必要。 ≪改善に向けた提案≫ ・ 市内外の研修・講座情報を整理し、必要な人が利用しやすくする。 ・ オンライン研修や動画教材を活用し、忙しい社員も学べる環境を整える。 ・ 経営者向けの AI・DX 研修を充実させる。 ・ 若手社員や中堅社員のリーダーシップ、起業家精神を育てる。 ・ 地域の農業を担う人材の育成も検討する。 ③ 企業の稼ぐ力と生産性を高める ≪課題≫ ・ 人手不足や人件費などの負担が増している。 ・ デジタル化を進めたくても、自社に何が必要か分からない企業がある。 ・ 補助金を活用しても、導入費用の全額が補助されるとは限らず、企業の負担が大きい。 ≪改善に向けた提案≫ ・ 企業ごとの課題を整理し、適切なデジタル技術や改善策を提案する相談体制をつくる。 ・ 業種別の成功事例を紹介し、導入後の効果を具体的にイメージできるようにする。 ・ 国・県・市などの支援制度を分かりやすくまとめ、企業に直接届ける。 ・ 高齢者など多様な人材が働き続けられるよう、企業と求職者のマッチングを支援する。 ・ 経営者が事業計画を作成し、将来を見据えた経営を行えるよう支援する。 ④ 企業・大学などの連携を促進する ≪課題≫ ・ 大学の研究成果や技術を活用したくても、企業が大学に相談するハードルが高い。 ・ 市内企業同士や、企業誘致で進出した企業と地元企業の連携が十分に進んでいない。 ≪改善に向けた提案≫ ・ 企業と大学をつなぐ相談・マッチングの仕組みをつくる。 ・ 企業と大学の共同研究や新製品開発を支援する。 ・ 企業同士が交流し、共同受注や技術協力などにつながる機会を設ける。 ・ 医療・ものづくりなど、共通のテーマを持つ企業の連携を進める。 ・ 大学発の起業や新しい事業の創出を後押しする。

	⑤ 創業・新規事業・事業承継を支援する ≪課題≫ ・ 起業前の支援だけでなく、起業後に事業を継続・成長させるための支援が必要。 ・ 新しい事業に挑戦するための相談先や活動場所が十分に活用されていない可能性がある。 ・ 経営者の高齢化などにより、事業の引継ぎが課題となる企業もある。 ≪改善に向けた提案≫ ・ 創業後 3 年・5 年などの節目も見据え、継続的な経営相談を行う。 ・ 起業した人の取組や成功事例を積極的に発信する。 ・ 研究開発施設など既存の施設を、新製品開発や新規事業に活用できないか検討する。 ・ 後継者を探す企業と事業を引き継ぎたい人をつなぐ仕組みを検討する。 ⑥ 企業の販路拡大と地域経済の活性化を進める ≪課題≫ ・ 海外展開を考えていても、情報や具体的な進め方が分からない企業がある。 ・ 飯塚市で生まれた経済活動が、地域内の消費や取引に十分つながっていない可能性がある。 ・ 飯塚市の暮らしやすさ、働きやすさ、地域の魅力が十分に伝わっていない。 ≪改善に向けた提案≫ ・ 金融機関などが持つ海外展開の情報やネットワークを企業支援に活用する。 ・ 地域の企業・住民・関係団体が連携し、地域の魅力や将来像を考える機会をつくる。 ・ 市内企業の取引や地域内でのお金の循環を促進する。 ・ 飯塚市の産業や生活環境の魅力を、市内外へ分かりやすく発信する。 ●会議全体を通じて見えてきた重要なポイント 今回の意見を整理すると、特に次の 5 点が重要です。 1. 人材確保は、企業の魅力向上とセットで考える 学生への情報発信や就職イベントだけでなく、給与・職場環境・働きがいなど、企業そのものが選ばれるための取組が必要。 2. 支援制度を増やすだけでなく、使いやすくする 既存の研修、補助金、相談窓口などを整理し、企業が必要な支援にたどり着ける仕組みが重要。 3. 企業ごとに異なる課題に対応する 一律の支援ではなく、企業の規模・業種・成長段階に応じて、経営改善やデジタル化などの適切な支援を行う。 4. 個々の企業への支援から、企業同士の連携へ

	大学、金融機関、支援機関、進出企業などをつなぎ、共同研究・新製品開発・販路拡大につなげる。 5. 施策の実施件数だけでなく、成果を確認する 研修やマッチングの開催数に加え、就職・定着、創業後の事業継続、生産性の向上など、実際にどのような変化が生まれたかを把握することが重要。 ●今後の進め方 会議では、今回出された意見を事務局で取りまとめ、次期産業振興ビジョンの検討材料として活用する方針が示された。 ・ 今回の意見を整理し、次期ビジョンに反映する内容を検討する。 ・ 次期ビジョンの骨格や事業の柱を段階的に示し、委員から意見をもらう。 ・ 今年度第3回の円卓会議は年明けに開催する予定。 なお、今回の会議で、個々の提案の実施や予算措置が決定したわけではない。 今後も更なる議論を行い、必要性や実現可能性などを検討していく段階。 ●まとめ 飯塚市の産業振興では、単に企業を誘致したり、就職イベントを開催したりするだけでなく、「若者や人材に選ばれる企業を増やす」「企業が成長できる環境を整える」「企業・大学・支援機関をつなぐ」ことを一体的に進め、地域全体の稼ぐ力を高めることが重要である、というのが今回の会議の大きな方向性となった。
会議資料	1. 円卓会議次第 2. 中小企業振興円卓会議　委員・オブザーバー名簿 3. 第2回中小企業振興円卓会議に係る事前意見集約表
公開・非公開の別	1　公開　　2　一部公開　　3　非公開 （傍聴者　0人）
その他	